

安曇野を自転車で巡ってみよう

安曇野

長野県の平地はみんな山に囲まれた盆地で、〇〇平といいます。「安曇野」は県中央部の城下町松本から北に延びる盆地で「安曇平」です。

「安曇野・安曇平」の魅力はいろいろありますが、なんと言っても、山々に囲まれた景色と田園風景が最大の魅力でしょう。「安曇野」を訪れる人にはこの地の自然・風景の魅力を存分に味わっていただきたいと思います。

大糸線で松本から穂高へ

松本市の北の安曇野市(人口 9 万 7000 人) の市内北部に「穂高」があります。松本駅から大糸線で約 30 分で穂高駅に着きます。大糸線のドアは寒冷地によくある、暖気をできるだけ逃がさないように乗客が開け閉めするタイプです。電車で乗り込んだら進行方向の左手(西側) に北アルプス(飛騨山脈) がずっと見えていますので、楽しんでください。

穂高駅

穂高駅に着いたら、ホーム中央辺りに北アルプスの山々を紹介する案内写真板があるので、写真と見比べて実際の山と比べてみてください。例えば、地元の人びとに最も愛されている「常念岳」は三角の山が二つ重なった形をしています。そのずっと右(北) の方の富士山型の山が、「信濃富士」の別名がある「有明山」です。

駅舎を出て、振り返るとバックにさっき見た北アルプスの山々が見えます。穂高駅前ロータリーには安曇野市穂高出身の彫刻家小川体系の代表作の一つである父子像「登頂」があります。

その傍らに、安曇野によく見られる「道祖神」があります。「道祖神」は特に江戸時代ぐらいから村の中や境にたてられた石碑・石像などで、悪霊や災いを防いで村人を守ったり、道に行く旅人の安全を守る神様とされました。「道祖神」は全国に見られますが、安曇野には特に多く 500 体以上があちこちに見られます。「安曇野道祖神巡りの旅」をする人もいるくらいです。安曇野は、男女の二人の神様の「双体道祖神」がたくさん見られるのが特徴です。それも握手したり接吻したりいろいろです。

安曇野穂高を 2 ～ 3 時間程度で観光するには、自転車がお勧めです。ロータリーの先の十字路の右角にレンタサイクル屋さんがあります。

穂高神社

レンタサイクル屋さんから東へ 100 m ほど商店街を行くと右側に石の鳥居があります。そこは「穂高神社」の駐車場です。

「穂高神社」は信濃国三宮の一つで「日本アルプスの総鎮守」とも言われます。「穂高神社」は海の神「綿津見命(ワタツミノミコ)」とその子の「穂高見命(ホタツミノミコ)」などを祭ります。これらの神はこの一帯にかつて住んでいた安曇氏の祖先の神とされています。駐車場の脇に「御船(オネ)会館」があり、この地で 9 月に行われる「御船祭り」で使う山車(ダシ) である「御船」などを展示しています。こんな内陸部で「御船祭り」があるのは、安曇氏は元々は海に関わる一族だったという伝説に基づいているようです。その先に「阿曇連比羅夫」のブロンズ像と石船が見られます。「御船祭」が毎年 9 月 27 日に行われるのは、安曇氏の祖先で飛鳥時代の実在の人物「阿曇連比羅夫」の命日で、彼は有名な 663 年の白村江(ハクシエ、ハツシコ) の戦いで戦死したと言われますが定かではありません。

なおその先にみられる「神馬像」は郷土の彫刻家小川体系作です。右手に拝殿などがあります。

「御船(オネ)会館」に入らなければ、「穂高神社」内散策は 10 分程度で観光ができるでしょう。

大王わさび農場への道

「穂高神社」から「大王わさび農場」までは自転車で 20 分ほどかかるでしょう。途中いくつかの見所があります。

「穂高神社」は最初の石の鳥居から出るのが分かりやすいでしょう。そこから右側（東）に向かい、突き当たりの信号のある交差点(T 字路) を右に曲がり、少し行って交番前を通り、さらに行くと、「大王わさび農場」などの標識があります。そこを案内に従って左折して少し行くと「東光寺」が左側にあります。

○東光寺…曹洞宗のお寺。御本尊として馬頭観世音菩薩(鎌倉時代作)を祀る。特に山門の願いが叶うという「仁王様の天下駄」は有名なので、鉄下駄を履いてみましょう。

○等々力家(ト・ト)本陣… 東光寺の斜め向かいに等々力家屋敷があります。等々力家は江戸時代にこの辺りの名主(庄屋)を勤めた豪農で、「本陣(大名の泊まる宿)」を勤め、松本藩主の鴨猟等の際には休憩所になりました。長大な長屋門は市の指定文化財で、表構えを構成する蔵々は群をなして見事です。

北アルプスと田園風景… その先少し行って案内標識で右に曲がり、更に行って案内標識で左折すると、そこから 10 分ほどかかります。途中、田園風景が広がりますので、その景色を楽しんでください。途中どこかで自転車を降りて、振り返ると北アルプス(飛騨山脈) が遠くに広がります。もし田植え前の時期なら、水を張った水田が鏡のようになって、北アルプスの山々と空がそこに映って見事です。

大王わさび農場

「大王わさび農場」は開拓 100 年を迎えた世界最大 (15ha) のわさび田です。明治時代にこの地の開拓者は、稲作や畑作に向かない悪い土壌だけど、北アルプスの豊かできれいな湧き水が得られることから、江戸時代から次第に流行した寿司に添える殺菌作用のある「わさび」に着目し、そのころは一般に山中などにわずかに自生していたわさびを本格的に栽培することにしたのが始まりです。

「大王わさび農場」は経営上手で、わさびを栽培しただけでなく、珍しいわさびの栽培を公開することで観光地化し、わさびを活用したわさびソフトクリームとわさびコロッケなど各種グッズを開発し、地元の八面大王伝説の故地を活用したほかに三連水車やボートなど別の観光要素を追加し、観光の魅力をどんどん拡大し、今では一大観光スポットになりました。「大王わさび農場」観光では、まず「わさび田」を見ましょう。わさびはきれいな水の河原で栽培することや光に弱いために黒いメッシュをかけて日よけをしていることなどが分かります。八面大王伝説は、平安時代にこの地にいた八面大王を大和朝廷が討伐のために征夷大將軍として坂上田村麻呂を使わしたという伝説です。農場内でそのゆかりの洞窟が見られます。三連の水車は、黒澤明監督の映画『夢』の舞台となった場所で、「安曇野」といえばいろんなものに紹介される代表的な光景です。時間がある限り農場内の各地を歩いてみましょう。最後に売店でいろんなわさびグッズも楽しめますが、わさびソフトクリームはそれほど辛くなくてちょっぴりピリリとして意外においしいでしょう。入口の「100 年記念館」でわさびについていろいろ学ぶこともできます。

礫山美術館

「大王わさび農場」の観光を終えたら穂高駅まで帰ります。来た道を風景を楽しみながら帰ってください。

駅前の交差点まで来てまだ 1 時間ほどゆとりがあるなら、安曇野観光のシンボルとも言える「礫山美術館」に行くこともできます。レンタサイクル屋の交差点から右に 5 分ほど行って、郵便局の交差点を左折して踏切を渡ったところに「礫山美術館」があります。

「礫山美術館」は日本近代彫刻をリードした萩原守衛(キヲヲエ 1879-1910、号は礫山トサノ) の作品を公開する美術館です。教会風のレンガ造りの展示館では、教科書などで有名な日本近代彫刻の最高傑作《女》以外にもたくさんの作品が観られます。